

令和 8 年度 第 2 回 在宅医療介護連携促進ワーキンググループ会議

- 開催日時：令和 8 年 9 月 16 日 10:00～11:10
- 参加者：
 - 阿南医療センター：副院長、院長補佐・部長、
看護副部長、看護主任、
ソーシャルワーカー、腎センター職員 3 名
 - 徳島県歯科医師会：在宅歯科医療連携室（南部）
 - 徳島県薬剤師会：南部支部長
 - 阿南市医師会：事務主事
 - 健祥会バイエルン：施設長（特別養護老人ホーム代表）
 - ほっとピース：代表取締役（居宅介護支援事業所代表）
 - ライフサポートキムラ：代表取締役（小規模多機能型居宅介護代表）
 - 阿南南部高齢者お世話センター：社会福祉士（お世話センター代表）
 - 阿南東部高齢者お世話センター：社会福祉士（お世話センター代表）
 - 阿南市 介護保険課：課長
 - 阿南市 介護保険課：課長補佐
 - 阿南市在宅医療・介護連携支援センター：センター長
 - 阿南市在宅医療・介護連携支援センター：看護師
- 欠席：3 名
- 報告書作成者：阿南市在宅医療・介護連携支援センター長

【要約】

本会議では、令和 8 年度のワーキンググループおよびケアカフェの開催日程を確認し、ケアカフェのテーマ順序入れ替えが決定されました。主要議題として、透析患者の災害時対応における送迎・介護施設受け入れの課題と、医療・介護連携における介護保険申請情報の共有について議論。災害時対応では市との連携強化が、申請情報共有ではルール統一とケアマネジャー不足への対応が課題として挙げられました。また、健康寿命の捉え方や地域医療構想に関する情報共有も行われました。

【議題 1：ワーキンググループ開催日程とケアカフェについて】

- 要点：
 - 第 3 回ワーキンググループ会議は令和 8 年 12 月 16 日に開催予定。
 - 第 1 回ケアカフェは令和 8 年 8 月 19 日に「老人保健施設と特別養護老人ホームの入所基準及び現状」をテーマに開催され、医療と介護の連携における共通認識の醸成に貢献し、参加者から好評を得た。会議の様子は YouTube で視聴可能。

- 第2回、第3回ケアカフェの当初テーマは「ACP（アドバンス・ケア・プランニング：人生の最終段階における医療・ケアに関する話し合い）」と「阿南消防署緊急対応事例による医療と介護への連携」であった。
- **決定事項:**
 - 第3回ワーキンググループ会議は令和8年12月16日に開催する。
 - 第2回ケアカフェと第3回ケアカフェのテーマ順序を入れ替えることとした。
 - 第2回ケアカフェ（令和8年10月21日）：阿南消防署緊急対応事例による医療と介護への連携について
 - 第3回ケアカフェ（令和8年11月18日）：ACP（アドバンス・ケア・プランニング）誤嚥性肺炎との関係について
- **対応予定:**
 - 決定事項に基づき、ケアカフェの準備を進める。

【議題2：透析患者の災害時対応に関する課題と送迎問題】

- **要点:**
 - 災害時、透析患者が病院に来られない場合の対応について不安の声が上がっており、特に阿南高齢者お世話センター、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所から相談があった。
 - 医療機関側は災害時の送迎手配は困難であり、市による送迎体制の確立が課題であるとの意見が出た。
 - 災害時における水道水の供給に関する病院と阿南市の協定の有無について確認が必要。
 - 患者指導として、災害時には避難所で自身が透析患者であることを伝えるよう促しているが、患者側の危機感不足が課題。
 - 各透析施設は「徳島県災害時透析標準化マニュアル」を患者に配布しているが、患者が内容を忘れている、または理解が不十分な現状がある。
 - 透析を1回抜かすことの可否は患者の状態により異なるが、日頃からの体重・食事管理など自己管理の重要性が強調された。
 - 介護施設における透析患者の受け入れは、食事管理、送迎、人員配置、医療費の包括化（DPC：診断群分類別包括評価など）による収益性の問題から困難が多い。
 - 特に小規模多機能型居宅介護施設では、介護報酬上の送迎サービス規定（1対1対応）が受け入れを難しくしている。
 - 過去のアンケート（阿南医療センターの透析患者107名対象）では、送迎に困窮している患者は4名と少数であったが、将来的な課題（家族の高齢化、介護タクシー不足）を考慮すると、継続的な検討が必要。
 - 腹膜透析患者の災害時対応についても、より簡単な操作方法を検討中である。

- **懸案事項:**
 - 災害時における透析患者の送迎体制の確立（市との連携、公共交通機関停止時の対応）。
 - 災害時の水道供給に関する病院と阿南市の協定状況。
 - 透析患者への災害時マニュアルの周知徹底と、患者の危機感を高める啓発方法。
 - 介護施設における透析患者受け入れを阻む制度・報酬上の課題解決策。
 - 将来的な送迎サービスの確保に向けた市の対応策。
- **対応予定:**
 - 阿南市に対し、災害時の水道供給協定および送迎体制の確立について確認し、透析患者のニーズを組み込むよう要望する。
 - 各透析施設に対し、災害時マニュアル配布状況と患者への周知方法を確認する。
 - お世話センターや居宅介護支援事業所のケアマネジャーに対し、個別避難計画作成時に透析手帳の確認を徹底するよう周知する。
 - 阿南医療センターは、介護施設の技術面に関する不安を解消するための研修会開催などを継続する。
 - 腹膜透析の災害時対応について、操作の簡素化に向けた検討を進める。
 - 輸送サービスに関する市の検討状況を踏まえ、透析患者のニーズを組み込むよう市へ相談・要望を継続する。

【議題 3：医療と介護連携における介護保険申請情報の共有について】
--

- **要点:**
 - 介護保険の新規申請時において、医療機関からお世話センターへの情報共有が適切に行われていない事例が確認された。
 - 病院が認識していない間に、患者家族が直接申請し、その後お世話センターから病院へ情報提供を求める連絡が入るケースがある。
 - 一部の市役所窓口において、市民が直接申請に来た際に、お世話センターへの案内を促し、受理しない（または遅延する）事例も発生している。
 - お世話センター内部でも、情報共有の必要性や代行申請の是非について意見の相違が見られる。
 - ケアマネジャー不足が深刻化しており、早期の情報把握が円滑なサービス利用に繋がるため、情報共有の重要性が高まっている。
 - 阿南医療センターについては、地域連携室を通じてお世話センターに代行申請を依頼しており、情報共有に問題はないことが確認された。
- **懸案事項:**
 - 介護保険申請における医療機関とお世話センター間の統一された情報共有ルールの確立と徹底。
 - 市役所窓口での申請受理と地域包括支援センターへの連携体制の明確化。

- ケアマネジャー不足問題への根本的な対応。
- **対応予定:**
 - 介護保険申請情報の共有に関するルールについて、再度精査し、阿南市内の関係機関（医師会含む）と協議を行う。
 - 阿南市内で統一した連携体制の確立を目指す。

【議題 4：寺島先生からの情報提供（健康寿命と地域医療構想、関連イベント）】

- **要点:**
 - 「健康寿命を延ばそう」という国・県・市のスローガンが行き過ぎると、人生の最終段階における医療・ケア（ACP）の準備がおろそかになり、幸福な終末期を迎えられない人が増える可能性がある。
 - 健康を目標とするのではなく、幸福を目標とし、健康に気をつけつつも、人生の各段階に応じた準備や切り替えが重要である。豊田市ではこの考え方を先行して取り入れている事例がある。
 - 阿南市においても、健康寿命の推進と並行して、その後の人生を見据えた施策が必要である。
 - 関連イベントとして、訪問看護に関する Web 学習コンテンツ「サジタケア」と、阿南医療センターで 10 月 10 日に開催される市民公開講座（がん対策）が紹介された。
 - 国が推進する地域医療構想について、県レベルで計画が進み、南部医療圏での具体的な病床再編や連携強化が求められている。
 - 市町村が医療に直接関与しないという従来の考え方から、市町村職員の地域医療構想への参画が推進されている。
 - 構想では、急性期、回復期（地域包括ケア病床）、高齢者救急・誤嚥性肺炎対応等の地域の中継医療機能の役割分担が検討されており、計画策定には市役所や医師会など地域関係機関の意見反映が不可欠である。
- **懸案事項:**
 - 地域住民に対し、健康寿命と幸福な人生設計に関するバランスの取れた啓発活動の実施。
 - 地域医療構想における市町村の積極的な参画と、地域の実情を反映した計画策定。
- **対応予定:**
 - 地域住民への啓発活動において、健康寿命だけでなく、人生全体を豊かにする視点を取り入れるよう検討する。
 - 地域医療構想の策定プロセスに積極的に関与し、地域の実情を反映させるための意見を提出する。
 - 紹介された関連イベント情報を関係者間で周知する。

【議題 5：阿南市医師会ホームページの医療機関情報更新について】

- **要点:**
 - 阿南市医師会のホームページに掲載されている阿南市内の医療機関情報について、現在更新作業が進められている。
 - 今年度中にあと4つの医療機関の更新が予定されており、完了次第、最新情報が掲載される。
- **対応予定:**
 - 更新後の医療機関情報を確認し、必要に応じて活用を促す。

